



KONICA MINOLTA

春の星座解説

S-104 (8分53秒)

コニカミノルタプラネタリウム株式会社

春の星座案内

M F I

空いっぱい星が出そろった季節です。

厳しい冬の寒さのあとには、生命にあふれた春がやってきました。

休みなく繰り返されるこの季節の移り変わりと同じように、見上げる夜空には、冬の星座に変わって春の星座が姿を見せています。

M F O

本機付

星座絵

北斗七星

1

北東の空を見て下さい。
七つの明るい星が見えますね。
線で結びと、こんな形になりました。

明るくて大変目立つ星の並びですから、昔から世界各地で注目されてきました。

昔の中国では、水を汲むのに使う「ヒシヤク」の形に見たのです。

これを「北の空のヒシヤク」という意味で、「北斗七星」と呼んでいます。

星座絵
おおへま座

今、私たちが使っている星座の多くは、西洋のギリシヤ神話を元に作られたものです。
それ以外の「おおへま座」「北斗七星」の星々は、「おおへま座」という星座の尻尾の部分となります。

ポインター

ポ

北極星

星

春の大曲線1

春の大曲線2

ポ

アークツールス

星

うしかい座

星

おとめ座

ポ

スピカ

ポ

デネボラ

星

春の大三角

「北斗七星」を使った「北極星」の探し方 — みなさん、知っていますか？

「北斗七星」のマスの先に当たる二つの星を結んで、この方向にその長さの5倍のばすと、ポツンと光る明るい星が見つかります。

この星が「北極星」なのです。

今度は大熊の尻尾 — つまり「北斗七星」の柄の部分向南に向かったのばして行くと、明るい星が見つかります。この星からさらに南に、このカーブをのばして行くと、また明るい星が見つかりました。

「北斗七星」の柄から南に向かったのびるこの雄大なカーブを、「春の大曲線」とよんでいます。

「春の大曲線」の上にある二つの明るい星のうち、最初のこの星は「アークツールス」と言います。星座は「うしかい座」

「うしかい座」は、大熊を追う男の人の姿を表した星座です。

もう一つのこの星は、「おとめ座」の「スピカ」

星座絵では、乙女の持つ麦の穂の先に輝いています。

この「アークツールス」 — 「スピカ」 — それに、この星を結んでできる大きな三角形を「春の大三角」と呼びます。「春の大曲線」と共に春の夜空の目印です。

「春の大三角」を作るこの星は、「デネボラ」という名前がついています。

「デネボラ」とは「獅子の尾」の意味で「しし座」の星なのです。

星

しし線

星

しし座

ポ

レグルス

「しし座」を見つけるには、獅子の頭に当たる星の並びを見つめます。

ちょうどクエッションマークの裏返しのような形ですね。これを獅子の頭として、「リネボラ」を尻尾の先とする。こんな姿が想像されました。

獅子の胸のところに輝くこの星は「レグルス」という名前です。太陽の通り道である「黄道」の間にある一等星として知られています。

太陽は8月の下旬にこの星のすぐ側に輝くこととなります。

ギリシャ神話によりますと、この獅子は、英雄「ヘルクレス」に退治されたネメアの谷の化け獅子とされています。

星

かに座

ポ

プセペ

(Oで囲む)

「しし座」の西隣には、「かに座」があります。暗い星ばかりで、カニの形を想像することは難しい星座です。

この星座を有名にしているのは、その甲の部分に「プセペ」と呼ばれる星の集団があることです。

肉眼では、ぼんやりとした光のシミのようですが、双眼鏡で見れば見事な星の集団であることがわかります。

このような星の集団を「散開星団」と呼んでいます。

M-C-1

なあ、春の星座 — 覚えましたか？

北斗七星

おおぐま座

北極星

北の空にある「北斗七星」

「北斗七星」は「おおぐま座」

「北斗七星」から「北極星」が見つかり――

アークトゥールス

うしかい座

「北斗七星」の柄をのばしたところ――この星が「アー

クトゥールス」

「アークトゥールス」は「うしかい座」

スピカ

おとめ座

さらにのばして――これが「スピカ」

「スピカ」は「おとめ座」の星。

春の大曲線1

春の大曲線2

このカーブが「春の大曲線」

しし線

しし座

クエッションマークの裏返し「しし座」のシンボル。

春の大三角

獅子の尻尾の星と「アークトゥールス」――「スピカ」と
を結んで、「春の大三角」

かに座

獅子の西隣には「かに座」があります。

春の星座や星たちと一緒に見てきました。
暖かくなって星空の下で、夜を過ごしやすい季節になって
います。

今夜、もしも空がよく晴れていたなら、いま見てきた星座や
星を実際の空で探してみてください。